

俳句を写真画像と共に楽しむ

●しゃらくかい 写楽同会

平成30年1月31日発信 025
投稿/投票宛先 ; kinuko_thompson@hotmail.com
© 2018 Sharakukai

平成30年睦月の兼題は沈丁花さん出題「去年今年」または「正月」です。
遅ればせながら今年もよろしくお願いいたします。

写真俳句

1 初春やのどけき日差し茶花孕み



初春やのどけき日差し茶花孕み



2 ポイントでおせちの届くお正月

有り難い世になりました。おいしくてリピーターになります。亡き母にも食べさせてあげたかった…。

ポイントでおせちの届くお正月

3 柄杓たて袖口濡らす初手水

最後に柄杓を立てる時に袖口を濡らすこともありました。





線香に仏なみだ目初参り

4 線香に仏なみだ目初参り

初詣では何処でも老若男女で賑わってますね。

5 鏡もち店で手にする今正月



鏡もち店で手にする今正月



去年今年踏む食む草の薄化粧

6 去年今年踏む食む草の薄化粧

馬には暮も正月も関係なし。村の大通りでの眺めです。

7 黄金の鯉が迎えし今朝の春

初詣のお寺にて。「こいつは春から縁起が良いわい」となればいいが…



黄金の鯉が迎えし今朝の春



8 日が昇り静かにつなぐ去年今年

今年は雲が少し出てましたが、良い天気でした。



9 老二人 平穏無事にお正月

古希もすぎているが、二人して今年も無事正月を迎えられ、ありがたいことと思っています。

俳句

1 枕辺に真白き下着去年今年

子供の頃、元旦の朝の思い出。新品の下着に着替え、特別の日を実感したものです。

2 住所録 三件消去 去年今年

この年になると毎年友人何人かが逝去されます。だんだん寂しくなります。

3 神妙にお札納めし去年今年

いろいろお願いしたお札に御礼を。ありがとうございました。

4 正月のめでたさ二乗まごふたり

100乗以上めでたいと思うのですが、ゴロが悪いので二乗。

5 忙しさに積み残しあり去年今年

時は止まる事なく否応なしに新年を迎えます。

6 初詣で冷えた手かざすかがり火に



今年の初釜（北切雀）

7 姉弟が顔揃えたるお正月

五人きょうだいの新年会がありました。

8 南天の実よき福来ると言いし母

亡母のくれた鉢植えが地植えでたくさん育ち、正月も真っ赤な実を飾りました。

短歌

オリオンを見上げて聞ゆ除夜の鐘カウントダウン待つ初参り 準坊

我が家の恒例。大晦日から新年にかけて近所の神社に初詣で。

川柳

準坊 ナビ無視し近道選び私の勝ち

カーナビはうるさく指示を出しますが無視するのも楽しいです。

池福楼

〈正月3句〉

門松も凧も和服も無い年始

大吟醸朝からドン！と三が日

3日間はうちの財務兼厚生大臣からおとがめなし。

紅白を見ても知らない顔ばかり

写真いいね！

活字から目上げ冬日で時を知る



推薦者：NGさんと昼寝覚

なんでも気づかれましたらご遠慮なくコメントして下さい（編集局）。



「写真いいね！」ではありませんが、FSさんから俳句カット写真に以下のコメントを頂きました。

* 「至福の3点セット」の出番がなかなかまわってこないね。
なかなか出番がないから、至福なんだね。

またESさんからは、全体に関するコメントとして：

* 今回は紙面がとてもきれいですね。どの文字も問題なくすいすい読めました。

<< >>は作者コメント、* は読者コメントです。

写真俳句の部 総投票数：30

二席 活字から目上げ冬日で時を知る 千泉（7票）



<<夕飯の支度の目安です。>>

- * 冬の日はあると言う間に暮れて行きますね。時間を間違えないように。
- * 日照時間の短い冬。ことに夕方は陽が早く落ちる。そんな時の寂寥感を良く表している句と画像。
- * 活字から目上げ冬日で時を知る（自然のリズムに合わせ生活する。しかもこんな素晴らしいロケーションの中で……羨ましいです。
- * 本に熱中し、ふと気がつくともう夕方になっていた、といった情景がよく出ていると思いました。

佳作 聖書読むことなき街のクリスマス 昼寝覚（6票）

<<キリスト教とは関係なく、クリスマスを祝う風潮に多少の違和感を感じています。>>



- * もともと何のお祝いだったかを忘れてしまいそうです（笑）。
- * 句またがりですね。クリスマスは恋人の日やケーキを食べる日になりつつありますね～
- * 写真がとても綺麗ですが、ちょっと虚しい感じもしますね。聖書を読まないクリスマス、まさにその通り。
- * 日本では人口の1%に満たない人がクリスチャンなので、この句の通りですね。
- * きらびやかに着飾った街の雑踏。商業化した聖夜のどこかよそよそしい風景を詠んで秀逸。

- * 日本のクリスマスシーズンの景色はホントに「クリスチャンでもないのに…」って思います。でも長年私はこの季節にディケンズのクリスマスキャロルを読むのを常としていました。ボブ一家の食卓の描写が大好きで、今もクリスマスっていうとこの様子が浮かびます。印象深い本に会えると一生友達でいられますね。

ムラカミが古典となりて年暮れて 北切雀（6票）



<<書店に村上春樹の「ノルウェイの森」が、「二十日鼠と人間」「ライ麦畑でつかまえて」「蠅の王」など、現代の古典ともいえる作品と並んでいた。>>

- * 本屋さんで、村上春樹の本がサンリンジャーの隣にあったら、私も、ホオーっと思ってしまおうだろうな。
- * 今の時代「ノルウェイの森」はもう古典でしょう。我が家にも古典が一杯。
- * ムラカミ作品も過去になっていく、年も暮れていく・・・いいですね。

- * すでに世界的な古典の仲間入りをしているのですね。カタカナの「ムラカミ」の表現がいいですね。
- * 「ノルウェイの森」も発刊30年。衝撃の作品も時の流れに時代も読者もカタチを変えていくのか。
- * ノーベル賞を逃し続けていくつももの秋が過ぎ、とうとう古典になってしまった！とちょっとユーモラスな感じが好き。

峰近し（順不同）



小春日に猫も紛れる漱石忌 池福楼

<<12月9日は漱石の命日。お参りの人が絶えない。時々このお墓に時々このお墓に見守り猫が顔を出す。（猫が撮れなかったので画像加工で再現）>>

- * 猫が小さ！もう少し大きくても。
- * 気のせいかなんだか本のような墓石ですね。戒名立派、にゃんこ可愛い！



着ぶくれて本を小脇にバスを待つ 久芽

<<本を読みながら待つつもりでしたが寒くて手はポケットに。>>

- * 寸暇を惜しんで読み続けたい本ってありますよね。写真全体の質感が冷え冷えとして寒さを捉えているのがいい。
- * 自分も通勤の時には本を買って読むのが楽しみでした。今は・・・。
- * 厳しい寒さを我慢して、買った本を帰宅後に読むことが楽しみ…。



うとうとと本を枕の小春日や iSAMU

- * いつのまにか眠りにおちて見る夢は、この本のような絵かな？
何の本かわかりませんが不思議な絵で白昼夢みたいですね。
- * 経験あります。本を読むとすぐに睡魔に襲われます。年季の入った本の写真がいいね。
- * 良く晴れて穏やかな日。窓越しの暖かな日差しの読書。俳句を詠む心も優しくなります。
- * 畳の目がいいですねえ。私は二つ折りの座布団枕、開いた本を顔に乗せ、をよくやりました。



みかん食べよごれた指で本めくる 梵木

- * あちゃー。
- * こたつに入り、本を読んでいる様が目に浮かぶようです。
- * こたつに入りみかんとともに、好きな読書といえば冬の大きな楽しみ。
- * 子供の頃、みかん箱からみかんを抱え込んで、ベットに持ち込み、みかんは食べたい、本はめくりたい、って、指についたミカンの筋やら、しみやらが本についたものだ。懐かしいな。日本の風景のすてきな写真を見ると、一時帰国したい！と思うのであります。
- * ある、ある。



作家逝き言の葉途絶え冬ざる 沈丁花

- * 大好きな作家だったので、寂しさが伝わります。
- * 好きな作家の逝去を、荒れさびた冬にたとえられたものは自らの心象風景か。

蕪村忌や句集傍らいざ句作 準坊



<<蕪村に刺激を受け自分もと句作を試みるも苦作に終わりました。>>

- * 句の作者ならではの句ですね。写真もすてきです。
- * 句創りの舞台裏を披露した作者の楽しく軽快な句ですね。
- * 自分めは苦作の句作が続く。基本の勉強してないからか。

短歌

寒風に駆ける落葉の鬼ごっこ纏れ重なりまた風を待つ 準坊

<<風を受け一斉に駆け回る落葉には意志が有るようです。>>

- * 落ち葉を擬人化した巧みな表現は秀作。「落ち葉の鬼ごっこ」の言い回しは夢があり童心に戻ったようでいいですね。

川柳

準坊 人の名を思い出せずに挨拶し

<<有名な人でも直ぐに名前が出て来ず困る事が多くなってきました。>>

- * どこかで見た顔だなと挨拶したら“ばかてめえの親父だ”、という落語を思い出す。

沈丁花 犬欲しと夫のつぶやき聞き流し

<<ムリ ムリ >>

- * “誰が面倒みるの” と妻のつぶやき。

ぎこちなく赤子を抱いて若き父

<<宝物を捧げ持つようにおくるみに包まれた赤ちゃんを抱く父親と、傍らに寄り添う妻。すれ違った時彼らは幸せのオーラに包まれていました。>>

- * 若き夫婦と赤子の様子を良く観察しています。ほんわかした川柳もいいものです。

俳句の部 総投票数：29 (昼寝覚さんは一票のみの投票)**一席**

ボロ市や母との絵本見つけたり 久芽 (9票)

<<懐かしい本を見つけました。それは昔母が良くよんでくれた絵本でした。>>

- * 年の瀬の名物市は400年余りの歴史があるそうで、賑わいの露店が目につかびます。
- * お母さんが読んでくれた本を見つけたときの気持ちが伝わってくる感じです。
- * お母様との楽しい思い出でしょうね。
- * 賑やかなボロ市の中でのほっとする一場面、いいですね。
- * 我が家でもボロボロの絵本を見つけました。懐かしさがこみあげます。
- * いいね。
- * 臉に焼き付いている絵本を見つけたら、飛びついて買うでしょう。

老いの冬近頃本も買わざりき 沈丁花（5票）

<<俳句歳時記すら買おうかどうか迷ってます。図書館にいつも出待ちの歳時記があるので…>>

- * 終活中なので図書館を利用してます。
- * 極寒の外の冷気が外出を戸惑わせるか。老いの冬の厳しきや。
- * 近頃に同感です。
- * 本を買わないで借りた方がいいよ。片付け大変だし。
- * 極寒の外の冷気が外出を戸惑わせるか。老いの冬の厳しきや。

風邪ひきの孫の絵本の読み聞かせ 北切雀（4票）

- * ズボラな私には読んで聞かせてくれるなんていうのは羨ましいー！限りです。
- * 映像が浮かびます。今は絵の無い絵本が大ヒットしている様ですね。
- * 作者は寝込んだお孫さんとの貴重な時間を愉しんでいますね。

峰近し（順不同）**凧の聲に眠れず本を取る 準坊**

<<凧の強い晩は雨戸の音や風の音で寝付かれず本を読む事も。>>

- * 凧の声に本を置いて、耳を澄ますと冬の月や夜空や木立たちの会話を空想します。
- * 凧の聲という表現に迫力を感じます
- * 眠れない時は本でも読もうと思うことがあります まして木枯らしの夜はなおのこと。
- * 厳しい寒さを我慢して、買った本を帰宅後に読むことが楽しみ…。

大晦日寺の鐘聞き本めくる 梵木

- * 本を読む静かな年越しが、遠くの鐘の音でよりリアルに感じられる句。
- * 心鎮まる大晦日の光景が浮かびます。

寝床でのわずかな読書かじかむ手 千泉

- * 冬の寒さが実感として伝わってきました。眠りに入るまでの時間、本を読むと、そうそうって感じ。
- * わずか数行の読書で眠りについても続きは夢の中で広がっていく。

冷え布団顎まで潜り活字追う 池福楼

- * 寒い冬の夜にここまでして読みたい本があるなんてスゴイです。
- * 御同輩が居て嬉しい

* 平成30年2月の兼題は池福楼さん出題「編む」または「織る」（その作品も含む）です。

3月号の兼題は梵木さん出題「旅」です。旅の文字が無くても旅に関する作品なら可とします。

* 平成30年1号の作品の写俳、俳句の中で「いいね」と思われた二作品の番号を投票して下さい。

* 句とは別に、写真として特にいいと思われる写俳作品がありましたら、「写真いいね！」として投票下さい。

* 投票しなかった作品へのコメントも遠慮なくお寄せ下さい。短歌、川柳も大歓迎です。

* 如月2月への投稿、睦月1月号作品への投票の締め切りはともに**平成30年2月18日**です。

* 随想、珍事報告などなど書き込みの他、読者さんからの兼題提案も常時受け付けてます。

「写楽句会」（五十音順）

池福楼、iSAMU、北切雀、準坊、隅っ孤、沈丁花、千泉、久芽、昼寝覚、梵木、

写楽句会025（連絡先：kinuko_thompson@hotmail.com）

筆責：北切雀

© 2018 Sharakukai

校正：準坊、池福楼

